

日本女性会議 2015 倉敷 報告

山上 文恵

平成 27 年 10 月 9 日（金）～10 日（土）日本女性会議 2015 倉敷「思いやり男女（ひと）が集う白壁のまち～ライフステージとそれぞれの男女共同参画～」が開催されました。

和太鼓のアトラクション後、開会式が行われました。



大会長の伊藤香織倉敷市長から、まず、ご挨拶がありました。「1984 年に第 1 回日本女性会議が行われて以来、今回で 32 回目を迎えます。1995 年の北京会議から 20 年を迎えます。節目の年と言っても良い時期に倉敷で行うこと、大変光栄です。ボランティア 750 名余のスタッフでおもてなしを行なっております。第 1 回の女性会議に係られていた滝澤房子さん（100 歳）がみえております。どのように滝澤さんに見られているのでしょうか？」等、節目を感じ、100 歳になられた滝澤様が車いすで来られていましたことは感慨深いものでありました。



引き続き、上岡美保子実行委員長の開会あいさつ、伊原木隆太岡山県知事・原田龍五倉敷市議会議長より祝辞をいただき、渡辺直樹副実行委員長より開会宣言をされ、幕があきました。



基調報告は、内閣府男女共同参画局 担当池永恵子さんより「女性が輝く社会を目指して」と題して、現状と政府の取り組み、今後の課題について説明がありました。

ジェンダー・ギャップ指数についてや、女性就業者のうち管理的職業に従事している割合が世界的にも韓国同様低い状況であることの説明、女性の活躍がある企業では生産性もあがり経営効果が上がっていることがデータからわかったことが説明されました。

続く記念講演は、NHK アナウンサーの武内陶子さんとパートナーの東京工業大学リベラルアーツセンター教授 上田紀行さんからそれぞれの立場からのお話があり、一番印象に残った講演でした。武内陶子さんは、NHKの紅白歌合戦の総合司会という大役を引き受けるにあたって不安もあったが、「一步前に進みなさい」と言っていたいただき、経験したことの無い壁にぶつかっても、戦略を立てて乗り越えることができましたので、皆さんにも「一步進みなさい」と言ってあげられる人になりたいとおっしゃいました。

また、パートナーの上田さんは、豊かな家庭の中で生きる意味がない人が多くいらっしゃる。「パッとしない私じゃ終われない」という元気になれる本を出版していますので読んで元気になって下さいと。本日の会議は「ガールズ・ビー・アンビシャス」ですねといわれ、「女性たち、輝いていますか？女性たちが輝いたとき日本はどのように変わっていくのか、どのように素晴らしくなるのか？」一人ひとりが税金を払い、豊かで輝けるようにいろいろな方々からサポートしてもらって頑張りましょうと激励を送っていただきました。

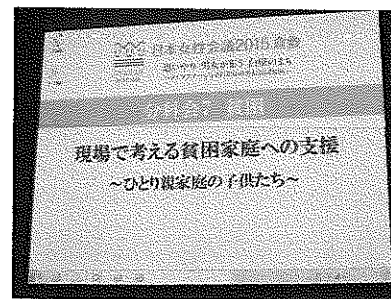
交流会は、倉敷アイビースクエアで開催され、倉敷ワインと地元の食材を豊かにアレンジしたレストランの食事に参加者同士の交流をはかりました。

アトラクションでは、箏曲演奏家の山路みほさんと尺八奏者のボンダルチュク・パヴェル氏ご夫妻による和の音色でおもてなしをしていただきました。参加者同士の話も大いに盛り上がりました。

二日目は、歴史・防災・子育て・コミュニケーション・DV・セクシュアルマイノリティ・貧困・食育・居場所づくり・若者という10の分科会分かれて学びました。

私は、「現場で考える貧困家庭への支援～ひとり親家庭の子どもたち～」と題して、ホームレス問題の授業づくり全国ネット代表理事の生田武志さんの現場から見えてくるお話を伺いました。親の貧困のために教育を受けられない、そのために就職もままならず、逆に親の借金を背負い貧困のサイクルの中にはまり込んでいく子どもたちの現状をはなされました。

そのような子どもたちを取り巻く環境において、「放課後の事業」で大人たちが必死に子どもたちの居場所をつくり、食事を与え、相談にのり、貧困のサイクルから一步でも脱出できるように支援しているところがあることを紹介されました。近くにそのような施設とおせっかいおばさん・おじさんがいらっしゃる場所でどれだけの子どもたちが自立しているか、そういうところがない地域での貧困から這い上がれない子どもたち、わたしたちが今なくてはいけないことはと問われた思いでした。



午後からは、UN Women 日本事務所の所長 福嶋佳代子さんから「国際的な男女共同参画の取り組みと事務所の役割」と題して報告がありました。女性のエンパワーメントのための国連機関として、世界の女性のジェンダー平等に関する教育の支援やリーダーシップを図り政治参画できる運動、雇用の機会の創出、賃金格差のない労働条件、安全で経済的エンパワーメントのある労働などを推進するために働かれている報告をうけました。

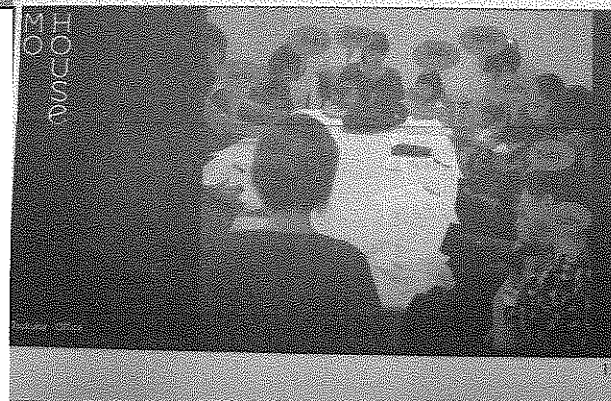


そして、岡山大学学長の沖陽子さんのコーディネーターによる記念シンポジウム「希望の社会は“わたしたち”にある」～ライフステージとそれぞれの男女共同参画～がありました。

パネリストの授乳服メーカーの「モーハウス」代表の光畑由佳さんからは、子連れで外出したときの公共の場での授乳が大変恥ずかしく難しいことに困り、どんなところでも授乳ができる洋服を考えられ、子連れで仕事をする事ができる職場づくりをするために活動をされている経験からのお話でした。連れてきている子どもさんがお人形をだっこして書類の紙を片手に持って遊ばれている姿を見せて下さったり、赤ちゃんをだっこして会議をされている映像を見せて下さいました。このような風景が当たり前になるようにしたい、また、自分を大切に未来を信じましょうと言われました。＝実現にむけがんばりたいですね。＝



東レ経営研究所研究部長で内閣府の少子化危機突破タスクフォース政策推進チームリーダーの渥美由喜さんからは、困難な中で周りの人を照らす人こそ、女性が輝くことだと思われ、男性のワ



ワークライフバランスを考え、5年後には育児休業取得を80%にしたいと言われました。＝果たしてできるやら、政府のやり方次第では。＝

倉敷市長 伊藤香織さんからは、「自分が輝くときは？」やりがいを感じるときで、市民の声を実現できた時です。「子育てするなら倉敷で」と言われる街にしたいです。今倉敷市の特殊出生率は1.61→1.63になりました。また、市役所における女性の管理者登用において、管理者になりたくない人多かったのですが、係長や課長になってもらって自信を持ってもらっています。土木職の採用においても女性を増やしています。最後に「私・私たちが作っていきます！」と力強く言われました。＝女性の管理者登用については、意識改革が必要と思っていました、トップが変われば変わるのですね。＝

沖洋子コーディネーターより、雑草利用学をつくりました。資源として役に立つ個性を持つこと。自然と共生し、自然体で男性女性を意識せずライフステージで輝きましょう。子どもたちは、大人の世界をみて育ちます。教育の重要性を認識してください。そして、子育てしやすい街にしてくださいとまとめられました。

